

# 名古屋芸術大学グループ 通信

61  
December  
2023

## 12 のメッセージ

名古屋芸術大学  
もうひとつの大学案内

### 悩んでいる君に贈る

今も将来も不安でいっぱい、  
なりたい自分になれない、  
自分と他人との関係、  
過去のことから抜け出せない、  
自分で決められない、  
理由もなく寂しくなったり苛立ったり……。

でも、それはたぶん  
一所懸命やってるから。  
誰もが悩んで悩んで、  
その結果としての成果を手にするのです。  
悩んで迷ったから今がある、  
そんな先生たちからのメッセージ。



名古屋芸術大学グループ

<https://www.nua.ac.jp/>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究科  
学部学科：芸術学部 芸術学科 音楽領域 舞台芸術領域 デザイン領域 美術領域 芸術教育領域 教育学部 子ども学科  
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園  
■瀬子幼稚園 ■たせこ幼児園 ■愛知保育園  
■幼保連携型認定こども園 森のくまっこ  
■名古屋音楽学校



なんでもない日  
2022



芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース

山守 良佳 (やまもり よしか)

講師

2016年 名古屋芸術大学美術学部日本画コース 卒業  
2018年 名古屋芸術大学大学院美術研究科絵画領域日本画 修了  
2019年 安曇野涼風扇子公募展 大賞  
2022年 第6回新日春展 奨励賞

# 寄り添う絵

## 表現することにチャレンジしたい

-日本画コースから大学院へ、順当な経歴に見えますが、どのような学生時代でしたか？

高校を中退して10年近く、アルバイトをしたり、メンタルをやられて働くこともできなかったり、そんな時期を過ごしてから大学に入りました。高校は、美術系に進みたいと思っていましたが、将来のことを考え普通科高校で学んだ方がいいとのアドバイスを受け選んだのですが、あまり自分とマッチせず1年で辞めてしまいました。そこから先は、就職も厳しい時期でしたし、いろいろなバイトを転々とやっていました。そうするうち2011年の東日本大震災があり、簡単に人は亡くなってしまうことを痛感し、自分にも期限があるならばやり残したことはなんだろうと考えました。そこで、なにか表現することにもう一度挑戦できたらと思いました。アルバイトは、アパレルや飲食もやりました。いずれにしても仕入れたものを売る仕事ですが、それは誰かが作ったものを販売するというもので、自分の表現とは限りなく遠いものです。販売の仕事しながら、この商品はもっとこうだったらいいなと考えることもあり、作る側にならないと表現することはできないなと思っていたことも、もう一度創ることに取り組みたいと考えるようになったのが理由です。

-災いが転機になったわけですね

仕事をしながら通信制の高校で単位を取り、高卒の資格を取りました。私も進学しているのかなと心許ない気持ちでしたが、塾に行つ

みて表現にもいろいろなジャンルがあることをあらためて考えました。自分としては、映像やイラストもいいなと思っていましたが、幼い頃は絵ばかり描いていて、絵が好きだったことを思い出しました。心が折れて描くことを忘れていましたが、またやってみたい、真剣に学んでみたいという気持ちになりました。塾の先生の勧めもあり、日本画に興味を持ち、作品を見て、岩絵具で過ごす心地がいいと感じました。彩りが豊かで光を吸い込むような感じで、これなら続けていけそうだという気になりました。先生の言葉や友人の言葉について頼ってしまいがちですが、周りに答えを求めず自分が納得できる作品、自分が心地良いと感じる作品になるようにと思っています。

## 自分にもっと自信を持ってほしい

-学生や悩んでいる人への言葉はありますか？

なんとかなるよというのは、あまり言いたくないなと思うんです。自分が昔、悩んでいる頃には、心に届きませんでした。話を聞いていると学生には、吐き出したいけれど吐き出す先がない子が多いように思います。なので、基本的には、話を聞いて寄り添うようにしています。作品にも自分自身に対しても自信のない子がすごく多いですね。ただ、絵を描くことは、なにもないところからものを創り上げて完成させることで、ものすごくパワーのいる作業です。普段何気なくやっていることが、社会では他の人にはできない自分の強みに既になっていると思いま

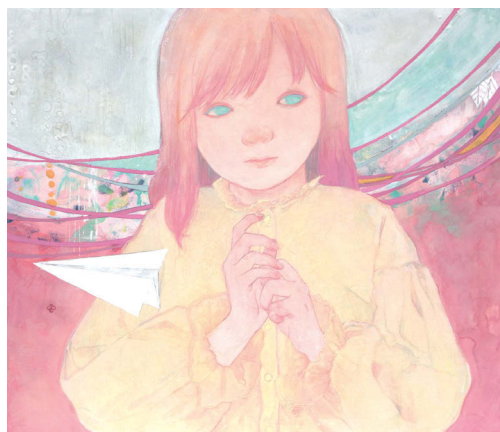
す。自分で1から組み立てなければいけない、人から言われてやっていることではない、そのことにもっと自信を持ってほしいと思います。自分の目の前の課題にしっかり取り組むだけで、本当にそれだけで、自分でやってきたことに価値があり、自信を持っていいことだと思います。今を精一杯生きてほしいですね。今は無理だという人も、たまたま今じゃないだけで、今を真剣に悩んでいると思うんです。

-時期が来るまで待てばいいのか、頑張つて、なにか少しずつでも変えていった方がいいのか、どうですか？

個人的には倒れたままでもいいと思うんです。でも、周りの環境によって、そこは人それぞれなので難しいですね。可視化された表層の社会というか、入試でも順位をつけるみたいに分けられたりしますが、それは別に人間としての優劣というわけではないじゃないですか。過去の自分に言いたいこととつながるかもしれませんが、そのときの自分を受け入れ、そこからどうするのか、自分と向き合うことですね。そして、進みたいときはどうやっていこうか一緒に考え、私の方も一緒に進んでいけたらと思います。



花から花へ  
2023



つたえたいこと、ひとつ  
2023



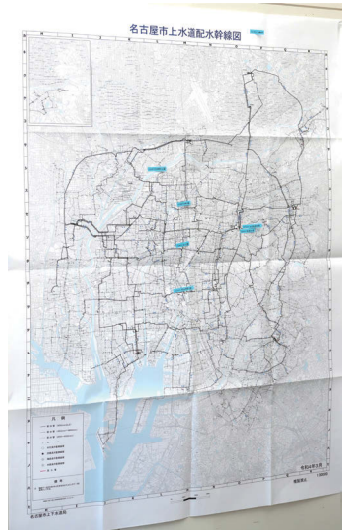
幸せの視点  
2023



# 人生、ムダになることはなにひとつない



研究室には、名古屋市の上水道配水系統図。「これは水道ですが、オランダの頃から川について地理学的なフィールドワークをやっています。生產品や加工、素材など、自分とのつながりが見えないものを意識することが大事な」



## 海外へ行きたいという動機から

– 大学を卒業して企業で働き、それから留学と多彩な経歴です。大学ではどのようなことを？

総合人間学部というのはわりと新しい学部で、いろいろな分野を連携して人間と環境のあり方や、人間の活動をとらえることで環境との結びつきや問題を考えたりする領域です。先生にはしっかりしたバックグラウンドがあって、理系・文系それぞれの先生がおり、その中でやりたいことを選びます。選択したコースには建築系と地理学系の先生がいましたが、私は地理学系を選びました。選んだ理由は、旅行にたくさん行きたかったから。先生の趣味が旅で、仕事を口実にフィールドリサーチに行くと言いながら旅行に行ってるようなことをおっしゃっていて、これはいいなと不純な動機から選択したんです。地理学はおもしろいのですが、修士を取得してもっと極めようというようなものではなかったので卒業し、さらに旅にかかわることがしたいと思い、航空会社へ就職するわけです。

– 普通に仕事するだけで旅行しているわけだ！

そうですね、海外駐在をしたいなと入ったわけですが、最初は空港で働いたりしていました。その後、本社の決算をする部署へ異動となりましたが、管理部門で日々Excelとの戦いばかりでこれはつまらないと。業績もどんどん落ちていき、それで会社を辞めて留学しようと考えました。

– ずいぶん飛躍がありますね。航空会社の前に証

券会社へも？

システムを覚えたので、留学するちょっと前に短期的に行つたぐらいです。それで留学なんですけど、子供の頃に絵画教室へ通ったことがあり、そういうことをまたやりたいなと。それから海外へ行きたいと思いつつ、全然ワタシ海外に行けてないじゃん！と気がついて。会社も、景気のいい時代は若手をどんどん海外駐在させていたのにもうだめだと思い、自分で行くかと考えました。

– どうしてオランダの学校へ？

デザインの傾向がほかの国とはちょっと違っていました。オランダがすごくよかったですよね、当時。ダッチデザインがメディアで大きく取り上げられたりしていました。オランダは、国として大きな産業はありませんが、戦略的な考えがあったようで、クラフトとデザインの間みたいなことに力を入れていました。アートとデザインの間のような。それから金銭的な事情もありイギリスは無理、ドイツはドイツ語が話せないと入れてくれないし、フランスはデザインの傾向がちょっと違うということもオランダを選んだ理由です。オランダは、補助制度もあって比較的安く行けたんです。私は最初、大学院へ入れられましたけど、そこでコテンパンにやられて、学部の2年生に入り直して、そこからなんとか卒業しました。

– コンセプチュアルなこととクラフト的なこと、手を動かすようなことも必要あったと思いますが、どうでしたか？

今思えば、できていなかったと思いますよ。

日本からも留学生は来ていましたが、多摩美術大学や武蔵野美術大学など、みんな美大出身。できる人たちが来ていたから、それからするとひどかったらと思います。だから、逆にコンセプト的な方向へ振りましました。コンセプト・デザインという、考え方の部分が重要ですし、卒業制作も自分のよく知っている地理学的なことを混ぜ込んで作品を作りました。結果的にはおもしろいものができたと思います。

帰国してからは、自分でデザインの仕事を受けてつ、友人の会社でもデザインの仕事をしながら、作品制作や展示などをしてきました。オフィス系のソフトが使えたことでなんとか生き延びることができました。Excelさまさま、ですよ(笑)。

## どんなことでもやったほうがいい

– 学生に伝えたいことはどんなことですか？

人生無駄になることはなにひとつない、ということですね。デザインと地理学がつながるとは自分でも思っていなかったもので、すごく驚いています。自分があまり好きではないなと思ったことの中にも、なにかしら役に立つことが絶対にあるので、どんなことでもやってみればいいと思います。すぐには役に立たないかもしれませんが、つながってくるときがあるんですよ。どんなことでもやってきた経験が役に立つときが来ます。地理学も、Excelも、役に立つんですよ！

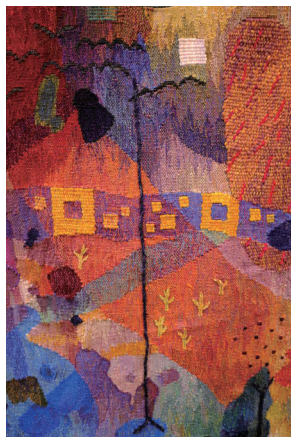
芸術学部 芸術学科 デザイン領域 メディアコミュニケーションデザインコース  
芸術学部 芸術学科 デザイン領域 ライフスタイルデザインコース

小粥 千寿 (おがい ちず)  
准教授

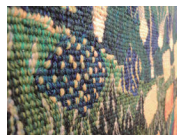
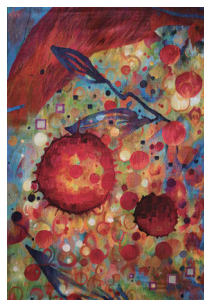
2002年 京都大学総合人間学部人間学科 卒業  
2002年～07年 航空会社、証券会社勤務  
2007年 Design Academy Eindhoven (オランダ) 編入  
2010年 Design Academy Eindhoven Man & Activity 卒業

2011年～ Chizu Ogai research + design  
2013年～ 株式会社55634 デザイナー





Look at what the light did now  
発表：2023年  
技法：綴織



gift (detail)  
技法：綴織

Moody Seeds In The Shell - I  
発表：2018年  
技法：綴織

# 会社には ひた隠しにして 作家になることを 目指して



## 会社員から作家、講師へ転身

－大学院を修了して就職していますが、どのようなお仕事だったんですか？

テキスタイルコンバーターという職に就いていました。テキスタイルコンバーターは、今あるテキスタイルをなにかに転用するというので、一から組織を考えて布を作ったり、染めて布を作ったりするのではなく、今あるものにアプローチをかけて在庫にあるものをなにか新しいものに作り替えることを考えたりします。例えば、ウールのフラットな生地があったとすると、それに縮絨加工してまったく新しい風合いのものを作ることをします。私が勤めていた会社は、加工技術に重点を置いた会社でした。

－アップサイクルのような、今の時代に合った業務に感じますね

それが激務で。小さな会社で少数精鋭、1人が1億稼ぐような会社で、給料は良かったですが、今では考えられないほどブラックでしたよ。大学院に行っている間は、織物の作家になりたいくて、自然素材のウールや綿を使っていましたが、そのルーツであるヨーロッパのタペストリーを勉強していて、つづれ織り作家になりたいと思ってました。作家になりたいのですが、現実問題として作品が社会に出ていくことを考えると、社会の中でどんな役割を果たすのか、お前はわかっているのかと問いただされる大学院の2年間でした。それで、ああでもない、こうでもないと考えるのですが、やはり答えは出ない。

そもそも社会というものをわかってないということに帰着して、就職するわけです。

－5年間勤めて転職、それから教える仕事になりますね

やはり作家がやりたかったんです。働いているときもずっと根幹にはその気持ちがあって、その中での就職だったので、会社にはひた隠しにしていました。会社を辞めてつづれ織りを再開し、作家になるぞというタイミングで結婚して関東から東海へ引っ越し、作品を作るにはまずお金が大事ですが、それまでに貯めたお金は家を建てるために消えてしまいました。作品のためにアルバイトする感覚で仕事を始め、仕事をしているうち非常勤講師のお仕事をいただいて、中途半端にできないなと講師の仕事を取りました。

## 今、悩んでいることも財産になる

－学生に伝えたいことは？

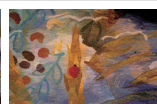
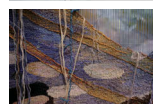
学生のときに悩んでいたひとつひとつのこと、絶対に忘れないでほしいなと思っています。自分自身、先生たちへの不満だったり、感謝だったり、あのとき感じていたことが今になって解決したり、新しい答えになったりすることがあるんです。学生時代に思っていたことで、自分自身を救うきっかけになることもあると思います。若い頃は将来への不安もあるし、すごく苦しいこともあります。暗中模索の状態かもしれませんが。苦しかったり、楽しかったりという経

験、そのひとつひとつが、やはり財産だと今は思います。時間が経って初めて気づくことなので、そのときのことを忘れないでいてほしいですね。

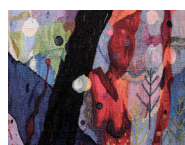
私はずっと作家になりたいかったですし、正直なところ、やりたくないことをやってみても、結局は続けられなくなると思います。なので、やっぱり自分のやりたいことが基本です。でも、社会に出ることで、自分だけでは解決できなかったことが急に開く瞬間が必ず訪れるものです。やりたいことを大切にしつつ、社会人になることも恐れないでほしいなと思います。



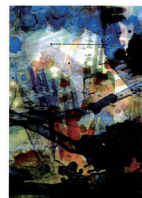
soil elements  
発表：2022年  
技法：綴織



infinity (detail)  
技法：綴織



綴織のためのドローイング  
技法：インクドローイング



芸術学部 芸術学科 デザイン領域 テキスタイルデザインコース

貝塚 惇観 (かいつか あつみ)

講師

2008年 東京造形大学 造形学部デザイン科  
テキスタイルデザイン専攻 入学  
2014年 東京造形大学大学院 デザイン研究領域 修士課程 修了  
株式会社 エム・アッシュ・エム 入社  
2019年 株式会社 織部 入社

2022年 尾州インパネ塾「ファッションと色彩」講師  
～23年



# やりたいことを やるための場所は 自分で作る



2020年【PEEPSHOW】  
グローバルゲート  
「◎月灯りの移動劇場」



2020年【炎える母】  
北九州芸術劇場中ホール  
「◎富永亜紀子」

## CMの仕事と舞踏との狭間で

—高校時代にダンスを始めて世界チャンピオンになり、その後、山海塾へ。多彩なことが起きます。ご自分にとってエポックメイキングな出来事はなんだったのでしょうか？

僕は、10代の頃にアメリカでヒップホップの世界チャンピオンになったんです。チャンピオンになった夜、クラブに打ち上げで行ったとき、アメリカ人のおじいさんがスティック片手にスコッチを飲みながら、グルーヴに合わせて乗っているのを見て、すごくかっこよくて、自分が目指したものとかがいいと思うものの差を感じました。なにを目指してきたのだろうと世界一になった日に気付いてしまって、その記憶を抱えたまま、CMや映画など商業の世界でやっていました。名古屋から東京へ出た頃、辻本知彦さん（コンテンポラリーからジャズ、ヒップホップまで、あらゆるジャンルのワールドクラスのダンサー。シルク・ドゥ・ソレイユ、Michael Jackson The Immortal World Tourへの参加、MVなどのダンス振付師としても知られており、Foorin『パプリカ』の振付も手がける）のところで一緒にやっていたが、彼に「ノブは、山海塾がすごく合っていると思う」と言われたことがあり、実際に見てすごく衝撃を受けました。山海塾を見たときに、世界一になった夜の記憶が蘇りました。山海塾の天兒さん（天兒牛大〈あまがつうしお〉1975年 舞踏集団 大駱駝艦から独立して山海塾を設立）の佇まいと、アメリカで会ったおじ

いさんの姿がリンクして、ただ技術とか有名になるとかではなく、肉体を使った存在と表現というものを確認しておきたいと思うようになりました。

—それから5年間、山海塾で活動。CMの仕事などと並行してですか？

山海塾だけでは生活できなくて、香瑠鼓さん（「タケモトピアノ」「グリコ ポッキー」「慎吾ママのおはロック」などを手がける振付師）にスカウトされて、CMや映画の仕事をしました。この頃は年間100本とか振付をして、ほぼ寝ないわけです。もう毎日、思い付きで作った振付を覚えてもらって現場へ行き、戻って夜にはまた振付を作る。お金はいいので何年もやっていたが、僕は消費されていくことに耐えられなくなっていきました。その一方で、山海塾では世界ツアーをまわり、世界中の文化をシャワーのように浴び続け刺激を受けるわけです。消費されるものを作っているのは自分の経歴として残るようなものは作れないと感じ、2009年に海外に完全に拠点を移すことを決めました。

—そこから自分の作品を作っていくわけですね。自分でやらなければいけないというモチベーションは最初から？

高校生ぐらいからありますね。ストリートダンスの頃は、自分でイベントを企画するオーガナイザーもやっていました。やりたいことをやるための場所は、他者に用意してもらうのではなく自分で作らなければいけない、とその頃から思っていて、実際、パリへ活動拠点を移したとき

もそうでした。制作をプロデューサーに一任していたがために、彼と意見が合わなくなったとき、お客さんがゼロということもありました。僕らダンサーは、お客さんがいないところで公演をしたんですよ。そんなこともあり、やはり他人に頼っていても自分が行きたい場所には行けなかった部分もありましたし、人とのコミュニケーションの取り方ってなにが正解なんだろうと悩んだりもしました。でも、誰かのせいにはしたくない。2016年に日本へ帰ってきて、生き残っていくために自分のカンパニーをもう1回作り直そうと「月灯りの移動劇場」を始めました。

## 専門家であり、総合的にも見られるようになってほしい

—学生や若い演劇人に伝えたいことは？

演者を育てるなら専門領域ですが、舞台プロデュースというのは、いわば裏方を育てるわけです。なにを学生に教えていけるのかと最初の1年は悩みました。舞台の世界に長くいますが、考えてみると大きな問題があって、それぞれ専門が縦割り化しているのです。よい作品を作るためには皆が意見を出し合って共同していくことが舞台の本来の形なのに、縦割り化していてそれができなくなっているのが現状です。じつは、演出家が一番それをフラットに見ています。同じように、それぞれの専門領域を横断して、他の領域のことも理解できるようになってほしいと思います。

芸術学部 芸術学科 舞台芸術領域 舞台プロデュースコース  
芸術学部 芸術学科 舞台芸術領域 共通科目等担当

浅井 信好 (あさい のぶよし)

講師

2002年 WORLD HIP-HOP CHAMPIONSHIP 1st (アメリカ)  
2006年 山海塾に所属  
～11年  
2010年 財団法人ポーラ美術振興財団から 平成22年度  
在外研修員 (ドイツ)

2013年 ベネツィアアルセナーレ ARTE ART PRIZE LAGUNA 12.13  
特別賞 (イタリア)  
2016年 月灯りの移動劇場 第1回公演  
2017年 ダンスハウス黄金4422 代表

SMAP やサカナクションなどのミュージックビデオやコンサートの振付、「嫌われ松子の一生」(中島哲也監督)、「パブルへ GO!! タイムマシンはドラム式」(馬場康夫監督)など映画、CMの振付でも活躍

月灯りの移動劇場





声優アクティングコース舞台公演にて、舞台上の役者たちへの演出風景



これまでに音響監督を務めた作品の台本

流されるのは、必要とされてるから



## もともとは役者になりたかった

—もともとは劇団でお芝居をされていますが、演劇とのかかわりはいつからですか？

中学生のときに、新聞の協賛だったお芝居のチケットをいただいたことがありました。「12ヶ月のニーナ」という作品で、見に行つて衝撃を受けました。僕はずっとスポーツ少年で演劇を見たことがなく、ワイヤーアクションで空を飛ぶわ、役者さんの身体能力も尋常じゃないわで、すごい世界があるんだと舞台の迫りに圧倒されました。それで、劇団を調べて入団しました。その劇団で、まずは高校生になることを優先しなさいと言われ高校へ入学し、演劇部に入りましたが、顧問の先生がしっかりした方で、活動しているうちに仲間が増え、大学へ入つて劇団を作りました。そういう流れで、もともとは役者になりたかったんです。

—役者志望だったんですね。でも、途中から作劇側に変わっていきます。その経緯は？

当時の劇団の演出は暴君で、怒鳴るわ、スリッパは投げるわ、当時の演劇界では当たり前でしたが、そんな世界でした。あのスパルタなやり方で、そこに感動があるのかな、と疑問を感じながらやっていましたが、主宰のやりたい世界が僕の中では自己満足に思ってしまう。僕はお客さんを楽しませるお芝居がしたい。もう袂を分かつかないですね。大学生のとき、自分のやりたいものをやる形で離れました。役者だったのに演出の考え方が嫌だったからと離れ

たわけですが、結局、役者は与えられた作品をいいものにするのが仕事で、それ以上は違う領域だと思いました。自分の考えているものを作るには、やはり作り手になるしかないと悟りました。

—作り手になるということが音響監督へとつながるわけですね

劇団に在籍している頃、自分が出ていないシーンで音楽を出すようなことをやっていた。昔のお芝居は役者がなんでもやらなければいけなかったで、裏方の仕事も当たり前でやっていた。役者がやりやすいタイミングですつと音楽を入れて、盛り上がりつつ来たと思ったらレベルを上げたりとか、いいと思うことを勝手にやっていた。それが明らかに得意だったんです。演じている役者からもハマノ君が音を入れるとやりやすい気持ちいい、と好評でした。お芝居がすごく好きで役者をやっていたのですが、こうしたことで、音のこともすごく好きだったんだとわかりました。よく、才能とは頑張らなくても人よりうまくできることだと言いますが、音響に関しては僕の場合はそれで、気づいたらわかっていました。でも、ずっと演劇のことばかりやってきたので、音のほうへ行こうとは思っていませんでした。それが、師匠の三ツ矢雄二氏に栄でばったり会って、僕が音響の仕事ができることを覚えてくれていて、そこからです。上京して劇団もやっていましたが、音響監督の仕事が忙しくなり、今も続いています。自分で考えてやってきたというより、流され

てやってきた感じです。でも、流されるって、必要とされているということでもあると思うんです。誰かが必要とするからそこに流れていくわけで、音響監督にしても監督から必要とされているからやってるわけです。自分は必要とされる、これでいいんだと思います。

## 待っているのはダメ クリエイターは提供するもの

—若い人たちに伝えたいことは？

若い子たちは、受け身なんです。言われればやるけど、答えを待っているんです。クリエイターは提供していく、間違っていたとしても、とにかく提供しなければいけないと思います。質問では「どうしたらいいですか」と聞かれることが多いですが、そうではなく、「こうしたいのですが、どう思いますか」と聞いてほしい。自分で考えずに答えを欲しがる子が多いです。受け身ですぐに答えを求めめるのではなく、自分で考えて答えをちゃんと提供する、こうなってほしいですね。声優のトップの人たちは、みんなしっかりと提供できる人たちです。監督が作りたいものを提供するけれども、監督が気づいていない、もっと作品がよくなる可能性を提供してくれます。監督の世界を理解した上で、自分の持っている技術で監督の思っている以上のものが出せたら、作品はよくなります。そのためにみんながそれぞれ考えているのです。



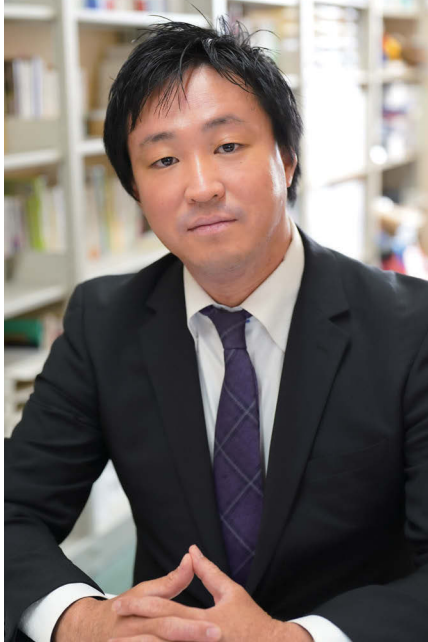
芸術学部 芸術学科 音楽領域 声優アクティングコース

ハマノ カズゾウ

准教授

高校生の頃より地元名古屋で演劇活動始める  
1993年 役者から脚本・演出家に転身  
専門学校演劇講師を従事した後、上京  
1999年 TVアニメ「ビックリマン2000」で音響監督  
2005年 capeta 音響演出

2007年 家庭教師ヒットマンREBORN! 音響監督  
2009年 クッキングアイドルアイマイ!まいん! 音響監督  
2024年 キングダム5 音響監督  
他、数多くのアニメーション作品、ゲーム、ドラマCDなどの作品に音響監督、音響演出としてかかわる



ちゃんとか  
やっつてい  
れば、  
なるように  
なる



急遽進むことに決めた博士課程も無事修了。「ちゃんとやっつていれば、なるようになるかと思えます」

実家の真珠販売業に携わっている際に出店した、真珠婚のイベント(志摩市で開催)にて。真珠婚をきっかけに真珠に興味を持ってくださる方もおり、貴重な交流の機会となった



大学時代の同期と。「キャンピングカーでどこか行きたくない?」というにげない会話から、翌日にはレンタルして富士山近くのキャンプ場に弾丸ツアーを決定。なかなか無茶なことをするが、そういうことができるのが魅力の友人たち

「瀬戸際戦隊 ゲンカイダー」学生相談室での会話から生まれたキャラクター。キャッチコピーは「君は、ひとりじゃない」



## 一発目の仕事でうまくマッチングすることはない

-教育学部を卒業し、小学校や高校でも教員の仕事をしていますね。専門分野はなにになるのですか?

学問分野的には心理学になります。入学した三重大の教育学部では、大きく分けて教育系と心理系にコースが分かれていて、迷った結果、心理系に行きました。どちらも魅力的でしたが、じつは先生とのつながりで選びました。でも、いわゆる学問領域的な特徴はあまりわかっていませんでした。今思えば教育系を選んでいたら卒論は書けなかったのではないかと思います。心理はデータでものごとを語るができる分野で、自分にとってよかったなと思います。卒業したときに、先生に声をかけていただき、三重大の教務補佐員という仕事をしました。1年契約の助手みたいなものですね。しかし仕事として安定しないので、同じ三重大の事務職員に転職しましたが、当時は教職連携や教職協働などの言葉もない時代で、働き方の違いがわからなくてうまく馴染めませんでした。それで、商売をやっている実家が販売の仕事の本格的に始めるというタイミングだったので、退職して実家へ戻りました。

-でも、1年ほどで先生に戻っていますね

実家の仕事を手伝っていましたが、家の中で完結するような仕事で、人とのかかわりが少ないので退屈になってくるんです。それで高校の

講師をやり、そのつながりから小学校の臨時的任用講師を頼まれました。そうするうち、やっぱり教育っていいな、という気持ちが再燃してきたわけです。それで、仕事が落ち着き時間まできたので、2013年に大学院へ入り直しました。

-そこから大学院に行き順調に教員に?

それが、教員を目指していましたが、採用試験の2次試験で落ちてしまいました。集団討論から集団面接に変わったタイミングで、それに対応できていなかったようなんです。そこで、改めて自分の適性を考えたところ、研究者向きだとなったわけです。普通あり得ませんが、大学院2年生の10月に急遽博士に進むことに決めて、ツテを頼って大阪大学へ行き、今に至るわけです。

-紆余曲折あるわけですが、就職や将来の自分のキャリアについてどのようにお考えですか?

まず、ちゃんとやっつていればなるようになるというのがあります。そうすれば、転職することにも抵抗がない。むしろ、一発目の仕事でうまくマッチングすることはないと思います。やはり経験することが大事ではないでしょうか。合う合わないというのは、本当にその人の個性や能力は別の次元でなにかあるなと思います。心理学者らしくないですが、タイミングはめぐってくるものでないかなと感じています。

## 自分で決められる力をつける

-学生に必要なことはどんなことですか?

やはり地力と言いますが、いわゆる汎用的な力と専門的な力、キャリアセンターは「キャリア二刀流」と言っていますが大賛成で、やっぱりそれらをつけていく必要があると思います。大学で行うのは、やはり学ぶ力の基礎をつけていくと言いますが、自分に必要な力を自分でつけられるようにしていくことを練習していると思っています。

-最近は学生だけでなく誰も間違えたくない、失敗したくないと思っていると感じます。学生は、自分になにができるかもまだよくわからない。どうすればいいでしょう

僕の考えとしては、自分のやりたいことがまず第一で、やっつてうちに見えてくると思います。仮に適性がなかったとしても、違う方向に行くのは、そのときに選択すればいいんです。その選ぶ力が大事で、選ばなければいけないときにそれだけの力を持っていないければいけないですけどもね。選択する力は、調べる力や考える力だったりするわけですが、自分で決断することが重要です。自分で決めたことで後悔すること、やらされたとか、決めさせられたとかいうことで後悔するのでは、かなり質が違うんです。心理学的にも違って、まあいいかと思えるのは自分で決めた方で、恨みに変わるというのは決めさせられた方なんですよ。

最終的に、やることは自己決定です。どうにもならないことで諦めざるを得ないようなケースもありますが、そうだとすると、ちゃんとやっつていれば、なるようになるかと思えます。

大学院 人間発達学研究科 子ども発達学専攻  
教育学部 子ども学科 幼児教育・福祉系  
磯和 壮太郎 (いそわ そうたろう)  
講師

2008年 三重大学教育学部人間発達学課程 卒業  
三重大学高等教育創造開発センター 教務補佐員

2009年 三重大学教務チーム 事務職員

2011年~12年 株式会社代々木高校 非常勤講師

2012年 志摩市立鶴方小学校 臨時的任用講師

志摩市立立神小学校 臨時的任用講師

2015年 三重大学 大学院教育学研究科教育科学専攻 修了

大阪大学 大学院人間科学研究科 教育コミュニケーション学研究室

2015年 大阪大学 教職科目担当 ティーチングアシスタント

2016年 大阪大学 大学院人間科学研究科 ティーチングアシスタント

2018年~20年 三重県立北星高校通信制 非常勤講師(心理学基礎)

2019年~20年 皇学館大学文学部 非常勤講師(認知心理学)

2020年 流通科学大学人間科学部 非常勤講師(児童心理学)

2020年~21年 くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科 専任講師

2021年~ 名古屋芸術大学人間発達学部子ども発達学科 専任講師







デンバー大学卒業式  
トランペットを持っているのは、式中で  
ラモント・ウィンド・アンサンブルでの  
最後の演奏をするため



Alan Hood先生と  
DU Trumpet Studioの仲間たち

## 演奏できる行政書士!! あっと驚くキャリアア二刀流 自分で考えて 解決する力を



### アメリカで勉強のやり方を教わった

行政書士の資格が目を引きますが、まずは留学の  
ことから。高校を卒業し渡米したのですね

小学4年生でトランペットを始め、そのまま中  
学でも吹奏楽部に所属し、高校時代には音大  
に進みたいと思っていました。夏期講習を受講  
したり、レッスンを受けたたり、いろいろやっ  
てみましたがよい行き先が見つからず、当時、高  
校へ学長の竹本先生が非常勤で来られていて、  
日本の先生と合わないのかもしれないね、とい  
うことでデンバー大学ラモント音楽院を紹介し  
ていただきました。夏に短期で行って見ましたが、  
先生たちの演奏技術の高さもさることながら、  
ものすごく親切というか、あったかいというか、  
ここに行くしかないと考えました。翌年の6月に  
デンバー大学附属の語学学校に入って英語を学  
び、次の春から入学しました。

日本の大学は合わなかった?

自分が、ちょっと意思が強すぎたというか、  
普通だったら黙ってしまうところも、つい口に出  
してしまう。納得できないことがあると反発し  
てしまうところがあって、先生からすればいい  
生徒ではなかったのかもしれないですね。日本  
の場合、トランペットの教え方でもそうですが、  
型にはめようとするところがあります。こうある  
べき、こうじゃないといけないというのが強いよ  
うに思います。一方でアメリカの場合、お国柄  
や国民性もあるかと思いますが、すごく理論的

で、例えばトランペットの実技でも、息を吐くと  
きの口の中や舌の位置について具体的に説明し  
つつ、実演とアドバイスをしてくれるなど合理的  
な指導方法なんです。人によって身体づくり  
も違いますし、やりやすい方法もそれぞれなの  
で、その人の個性を尊重して最適なやり方を一  
緒に考えてくれるやり方です。それから、実技と  
は別のアカデミックな分野。音楽史などの学科  
系科目ではものすごくたくさんの課題が出され、  
効率的にやっついていかないととても間に合いま  
せん。効率よく勉強する方法が自然と身についま  
した。勉強のやり方を教わったように思います。  
楽器に限らずすべての勉強が同じで、行政書士  
試験に合格できたのもデンバー大学の教育が  
あったからこそだと思います。

どうして行政書士の資格を?

大学院に在籍している頃から、地元の音楽教  
室などで教え始め、フリーランスで演奏と指導  
の仕事をしていました。並行して大学の非常勤  
事務職員となり、音楽学部契約助手、国際交流  
センターの業務委託職員を務めました。国際交  
流センターでは、海外から来られる客員教授の  
在留資格関連のサポートもしていましたが、あ  
る客員教授が大学と別のイベントで指導して  
いたことがあり、入管からイベントの主催者に対  
し「資格外活動に当たるので別途申請が必要」  
と指導が入ったことがありました。入管法のこと  
を知ると、教授だけでなく海外アーティストでも  
ちゃんと許可を取っていない場合があるとわか

り、そういうお手伝いができるといいなと考  
えるようになりました。それからもうひとつ、自分  
が演奏や指導の仕事をする場合、不利な条件  
で一方的な契約を結ばされることがあります。  
行政書士の知識があることで自分の身を守れ  
るかなと考えました。それで、資格を取ろうと勉  
強しました。

### 自分が受けた教育が 学生の役に立てば

学生に伝えたいことは?

いつか、自分がデンバー大学で受けたような  
教育を、学生にしてあげることができたらいい  
なと思っています。自分で考えて解決する力を  
習得させてくれました。どういう道に進んだと  
してもいいんです。一般企業でもいいし、ぶっ  
ちゃ趣味でもいいんです。あのとき教えてもら  
ったことがここで役立つなって思ってもらえたら  
嬉しいですね。



名古屋芸術大学国際交流センター 2017年度デンバー大  
学短期英語語学研修引率時、Alan Hood先生と再会



芸術学部 芸術学科 音楽領域 共通科目等担当

杉江 齊 (すぎえ ひとし)

講師/国際交流センター長

2000年 愛知県立明和高等学校音楽科を卒業後、渡米

2006年 デンバー大学ラモント音楽院音楽学士課程  
トランペット・パフォーマンス専攻 卒業

2009年 名古屋芸術大学大学院音楽研究科器楽専攻 修了

2014年 行政書士登録 行政書士杉江齊法務事務所開業

2020年 名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域 講師

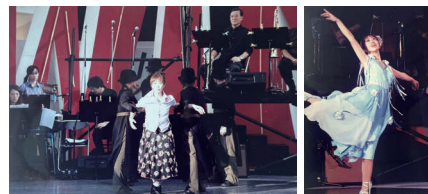
名古屋芸術大学非常勤事務職員、音楽学部契約助手、国際交流センター業務委託職員



# ひとひのこぶに 打ち込める時期



中学1年時、名古屋放送児童劇団での初舞台。夏休みは毎日稽古に明け暮れていた。愛知芸術劇場大ホールにて



大学1年生の時、オアシス21で行った、森泉先生脚本「Swing! Jeanne, Swing!」のワンシーン



卒業後、様々なミュージカルの舞台に出演

## 本当にミュージカルのことしか頭にないような感じ

—ミュージカルコースの卒業生ですね。いつ頃からこの世界を考えていたのですか？

物心ついた頃から歌が好きでした。合唱団に入り、そこでミュージカルをやるので、自然にミュージカルに触れました。お芝居も大好きになり、NHKの児童劇団に入り、そこで本格的な舞台も経験しました。合唱団が小学3年生、児童劇団が中学生からでした。部活で演劇部にも入っていましたし、ずっと舞台にかかわることをやっていました。ダンスは本格的に舞台の道を志そうと思うようになってから始めたので、ちょっと遅くて15歳になってからなんです。公演のためのダンスは児童劇団でもやっていましたが、そこから本格的に始めて、もう毎日のようにレッスンに通っていました。大学へは、高校生のとき巡回公演でミュージカルコースの先輩たちが学校に来て、それを見てこの大学に入りたいと思いました。

—親御さんは心配しませんでしたか？舞台の演者になることを心配する方も多いですが

うちの親は応援してくれていました。本当に感謝ですね。まずは大学に行くということが大きなことだったと思います。大学ではないところにとりうと、やはり心配しただろうと思います。専門的に学べて、大卒という資格も取れるということで納得してくれていました。

学生生活は、本当にミュージカルのことしか

頭にないような感じでした。授業の後もすぐにレッスンに行き、歌って踊っていました。ミュージカルコースができて間もない頃でしたが、すごく活発な活動をたくさん学外でもやっていました。韓国に行ったり、全国ツアーもありました。それに出演するためのオーディションがありましたが、1年生のときに受かって、本当にいい経験をさせてもらいました。

—学生生活で、自分にとって一番大きかったことはなんですか？

やはり出会いですね。先生だったり、仲間だったり、そのつながりで今も仕事になっています。それから、あれだけ打ち込める時間を持てたこと。自分がやりたいことに向かって、ただ頑張ることができた時間はとても貴重でした。学生と言ってもプロダクションのような感じで、競争心を持ちつつ、お互いを高め合う生涯の仲間たちと出会えました。卒業後は卒業生でカンパニーを立ち上げ、今でも一緒に舞台に立っています。学校の中にいる間に人と出会って自然とコネクションを作ることができたことは、本当に大きなことですね。

## 今は、いろいろなことができなければいけない

—ご自身はミュージカルに打ち込んできたわけですが、学生やこの頃の若い子に教えることに難しさはありますか？

今は、みんなの興味が多岐にわたっていると

言うか、私たちの頃とは違いますね。ミュージカルダンサーとしても、以前ならバレエとジャズダンス、しかし今はヒップホップも踊れなければいけないし、いろいろなことができるようになっていなければなりません。さらに、アクセスできる情報量も増えて、興味もさまざまです。ミュージカルも好きだけど、アニメの世界も好きという子がたくさんいて、私たちの頃のようにひとつのことだけに向かうのではなく、広がったように感じます。2.5次元ミュージカルもありますね。だからと言って決して熱が下がったわけではなく、常識が変わっているというか、取り組み方も指導も対応して変わっていかねばいけません。根本的な舞台に対する姿勢などは不変で、今も通ずるものがあると思うので、新しいことと変わらないことの両方、うまく伝えていきたいですね。それから、今の学生は自分の感じていることをうまく出せない、出すことが苦手な子が増えているように感じます。ひとりひとりと話す、こういう子だったんだとわかる。コミュニケーションの問題なんですね。人によって響く言葉は違うので、どう伝えたらいいのかということはこの頃はよく考えています。

芸術学部 芸術学科 音楽領域 ダンスパフォーマンスコース

芸術学部 芸術学科 音楽領域 ミュージカルコース

柘植 万梨恵 (つげ まりえ)

講師

幼い頃から舞台に憧れ、合唱団、児童劇団に入団  
声楽、クラシックバレエ、ジャズダンス、タップダンス、演劇を学ぶ  
名古屋芸術大学音楽学部声楽科ミュージカルコース 卒業  
NPO法人 JOY Kids' Theater 講師  
Smile musical academy 講師  
ミュージカルユニット FunnyBones メンバー





2023年6月、ロサンゼルス COREY HELFORD GALLERYにて開催した個展の様子

# どんな表現に関心があるのか、自分を知らることが大切



## イラストと日本画、両方やっている

— 日本画家でありイラストレーター、絵描きになろうと意識始めたのはいつ頃？

絵を描かれている方、みなさんに共通していると思いますが、小さい頃から絵を描くのが好きでした。小学校の頃、雪が降ったりすると授業を休みにして校庭で遊ぶ、というようなことがありましたが、そういうときも教室にあるストープの前で絵を描いているような子供でした。中学生の頃には、大学に行かせてもらえるなら絶対に美術の大学と決めてました。そこで、どうせ美大に行くなら高校から美術科へ行ってしまえばいいと思い、旭丘高校の美術科へ進学しました。日本画は、まず立体が壊滅的にできなくて、びっくりするぐらい下手で、油絵か日本画のどちらか悩みました。高校の3年で専門を決めるのですが、日本美術をいろいろ見て、軸とか天井画とか、この一連の歴史の中に自分も入れたらカッコよさそう、そんなことを思って日本画を選択しました。

— 順当に進んでいるように見えますが、今に行き着くまではどんな苦労がありましたか？

やはり東京藝大へ行きたくて、その頃には画家に絶対になりたいと思っていました。入ることができず2年浪人しましたが、結局、愛知県芸へ行きました。大学で感じたのは、じつは自由のなさ。決められた時間で、決められたモチーフを描かなければいけない。それに加え、日本画の世界が閉じられた世界で、その中でしか作

品の発表もできなさそうだと閉塞感を感じていました。日本画家として、もちろん作品を発表はしたいですが、もう少し開かれた場所で幅広く絵を見てほしいと考えていました。3年生のあたりから月1回は東京のギャラリーを見に行くように心がけ、その中で山本タカトさんの作品を見て、考えが変わりました。もともと絵は知っていましたが、イラストレーターという肩書きで、美術の業界で絵画としても評価されているんだと。なるほど!と思いました。日本画家としてやっていくか、イラストレーターとしてやっていくか、どっちにしようかとすごく悩んでいたんですけど、選ぶ必要はなさそうだと道が開けた思いでした。それまではイラストで描くような絵のスタイルと日本画のスタイルを分けていましたが、両方をやることで双方にいい作用があると思うようになりました。

## 簡単に消費されない絵を

— 学生に伝えたいことや今後やりたいことは？

学生には教えられることばかりですね。学ぶ姿勢も学校以外での活動に関しても、本当に勉強になります。私はずっと美術というか日本画でやってきたので、デザイン領域は全然違って勉強になることばかりです。ただ、学生たちの様子を見てみると、1枚のすごくいい絵を描くことよりは、わかりやすく、フォロワーが付いて、いいねをたくさんもらえる人になりたいという感じがあるんですよ。絵を描く目的が、いい絵を

描きたいというより、バズりたいというのがすごくあるなと感じています。次々と新しいイラストレーターが出てきて、尋常ではないスピードで消費されていっています。そのスピードがどんどん加速していますが、そういうところは目指してほしくないです。自分にはどんな表現が向いている、どんな表現に本当は関心があるのかということ、上手でなくてもいいから、そこを知るための授業をもっとたくさんやっていこうかなと思っています。



不在証明



あとかた



あなたが教えてくれた唄



芸術学部 芸術学科 デザイン領域 イラストレーションコース

佐久間 友香 (さくま ゆうか)

講師

2014年 愛知県立芸術大学美術学部日本画専攻 卒業  
平成25年度 愛知県立芸術大学卒業・修了制作展 優秀作品賞  
第二回 三芸大学生選抜 H/ASCA展 優良賞

2015年 第6回 星野眞吾賞展 入選  
ART AWARD NEXT 3 入選  
2016年 愛知県立芸術大学院博士前期課程 日本画領域 修了



# 何者にも ならないことも 大事なこと



「港まちの映画を作ろう（歴史と防災をテーマに映像で物語を紡ぐ）」プロジェクト（2016-2017）  
名古屋市港区西築地学区「港まちづくり協議会」が主催した提案公募型事業にて、名古屋の港まちの歴史と防災をテーマとする映画『右にミナト、左にヘイワ。』を制作（監督、企画、脚本、編集を担当）。

## いつになったら就職するんだと、 いまでも言われます

—映画とのかかわりは、どこから始まるのですか？

小説を読むことや、映画を見るのが好きで、文化的なものに関心がありました。でも、絵を描くことや楽器を演奏する技術もないので芸術大学には行けない。文化や芸術に近い分野で一般の4年制の大学に進学するとしたら文学部しかない。そこで文学部に進み、実験やデータを扱うなど、理系の要素にも興味があったので、心理学を選びました。その一方で、自分自身の興味関心は、やはり映画。その当時は、映像や映画を専門とするコースもなかったため、映画サークルに入りました。そこでは、8ミリフィルムで映画を作っている人たちがいて、非常に楽しそうでした。そのつながりから、珍しい映画館でバイトしてみないかと紹介され、今池の名古屋シネマテーク（2023年閉館）でアルバイトを始めました。そこへ映画を見に来る人は、一般の映画が好きだという人とはまた異なるタイプで、自分でも作っているという人も多く、交流が始まり、他の大学の映画を作っている人たちとも知り合いになり、だんだんネットワークが大きくなり、大学の本来の勉強よりも映画に比重を置くようになりました。

—就職についてはどのように考えていましたか？

企業に就職することは考えていませんでした。自分としては映画に興味がどんどん傾いていたけれども、映画の仕事は東京以外にはない。た

だ単に卒業するだけでは親は許さないだろうし、ある意味、説得材料のひとつとして進学を考えたというのがじつところ。卒論では、心理学の見地で映像の物語をどのように人間が理解しているのかということテーマに、被験者に映像を見てもらい、インタビューし数値化してまとめるようなことをしました。そうするうち、自分自身が映画のことにもっと詳しくなければ、もっと理論的なことを学ばなければわからないと思い、大学院に進学するとき、映画の歴史を専門にしている先生がいらっしゃる研究科に進みました。

—そこから映画の研究にどっぷりつかっていくわけですね

最初の2年はいろいろな本を読み、歴史についても詳しくなりました。そして、テーマを決めて論文を書こうとするんですが、自分はこの先どうなるんだろうかとも考えるんです。本当は映画を作る側になりたかったのになと思い、1年休学して作品を作り、3年かけて修士課程を修了しました。博士課程でも、映画業界の問題や地方で独立系の映画を見てもらう難しさなどを考えながら、自分の研究と博士論文を進めました。博士論文ですが、3年間で書き切れることは難しいものです。多くの方が海外へ留学して書き上げるんです。自分にもそういう時期が来ていましたが、やはり立ち止まり、自分自身は大学の先生になるつもりなどまったくなかったのに、キャリアを積むために留学とか今やることなのかと迷ってしまい、博士課程を中退し、いろ

いろなバイトをやりました。バイトのひとつとして大学や短大、専門学校で講義をするうち、本学でもお仕事をいただいて今につながっています。親には、いつになったら就職するんだと、いまでも言われます（笑）。

## 答えのない時代に

—若い人たちに伝えたいことは？

楽しく生きるのが一番、人生なんかかなということですね。芸術教養領域では、何者にもなれるということを掲げていますが、逆に、何者にもならずどこまで生き続けられるかということもすごく大事だと思うんです。いろいろな人と話をしたり、いろいろなことを知ったり、いろいろなものを見たり、聞いたり、読んだりして、何者でもない自分でい続けることによって、どこに行っても適応できる人になれるのではと思います。もちろんスペシャリストであることもすごく大事なんですが、例えば映画のことだったら自分は一家言あるとはいえ、業界の中のなんという仕事かという、別に名前があるような職業ではまったくくない。そのような、自分の専門領域を基礎にしながら、他の領域とコミュニケーションを取って別の新しいなにかを生み出していくことができるといいのかなと思っています。これからの世の中、そういう答えのないことが増えていくのだろうと感じています。

### 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域 リベラルアーツコース

## 酒井 健宏 (さかい たけひろ)

准教授

1999年～2023年 一般社団法人名古屋シネマテーク スタッフ  
2001年 名古屋大学文学部人文学科 卒業  
2004年 名古屋大学大学院人間情報学研究科 博士課程前期 修了

2006年 名古屋大学大学院情報科学研究科 博士課程後期 中途退学  
2012年～ 愛知芸術文化センター・愛知県美術館 オリジナル映像作品制作 作家選定委員





港まちブロックパーティーの様子 (撮影：三浦知也)



港まち  
アートブックフェアの様子  
(撮影：藤井昌美)

# 美術にかかわることは 大変だけど すごく楽しい仕事



## 自転車に乗って 美術館へ文句を言い

### -美術とのかかわりは、どんなところからですか？

私は東京都墨田区の区立中学校に通っていたんです。すぐ隣に私立の男子校があって、横を向けば教室も見えます。私立のほうにはエアコンが付いていましたが、区立のほうはもう暑くて、エアコンを付けてほしいなと思っていたところに東京都現代美術館ができました。1995年です。その現代美術館が、リキテンスタインのポップアートの漫画みたいな絵画を6億円で買うというんです。当時、大きなニュースになりました(「ヘアリボンの少女」事件と言われたほどで、都議会でも批判されました)。もう、怒り狂ったわけです。エアコンが何台付けられるんだと。それで、美術館に文句を言いに行こうと自転車で乗り込んでいったら、その絵画にすごく感動してしまっただけです(笑)。ドットがペインティングで描いてあるということに感動して、ニュースで見て知ったかぶりをしていたなと反省しました。それから、放課後通うようになりました。美術館には、よくわからないこと、学校で習わないことがたくさんありました。ジェフ・クーンズの掃除機があったり、カラーライスで顔を洗う映像作品(木村太陽「Video as Drawing」)など、もう本当になんかわからないものがたくさん置いてあって、今までなんと小さい価値観で生きてきたんだろうと反省しました。その「わからないこと」ということを肯定された気持

ちになったんです。それで、美術をすごく好きになって、もっと勉強したいと思ったというのが始まりです。

### -作家になりたいとは思っていませんか？

強烈なものを浴びすぎていましたので、私にはこんなことを考える才能はないと、一瞬で諦めました(笑)。だけど、美術にかかわるには、どうしたらいいのかということを探しました。美術館の中には、監視員さんとは違う、展覧会を企画したり、作品を調査したりするキュレーターという人がいる、人に伝える仕事があるとわかりました。では、キュレーターはどうしたらなれるのだろうと調べると、東京藝大、多摩美術大、武蔵野美術大に勉強できるコースがあり、多摩美術大へ行きました。でも、実際にキュレーターに会ったこともなかったし、アートの仕事とは言いつつ、どういう仕事か具体的にどうなのかというのはあまり想像ができていませんでした。

### -学生時代はどのように過ごしていましたか？ どうしてアートコーディネーターに？

1年生のときに友達に偶然誘われたのが、アートプロジェクトのボランティア。中村政人さんが主宰するコマンドNにお手伝いに行ったのが始まりでした。そこで、キュレーターやアートコーディネーター、美術専門の通訳、デザイナー、アーティストもいて、初めて生で見る職業の人がたくさんいて、大変ですがすごく楽しそうに働いている姿を見ました。こうしたことをやっていくうちに、自分にはアーティストが作ったものを、美術館やギャラリーだけではなく、街の中など現

実の社会につなげていく仕事があると感じました。調整や交渉をする役、橋渡しする人ですね。その仕事がおもしろいなと思いました。

大学在学中から、週のうち何日かは横浜のBankART1929で働くようになり、あいちトリエンナーレが始まるたびに、街の中で展示のできるスタッフが足りず声をかけてもらったのが名古屋へ来るきっかけです。名古屋は、アートセンターのような機能の場所が少なく、まだないものを作っていける土地だなと思っています。

## 作品の背景を知ることが大切

### -現代美術を見るときのポイントを教えてください

美術は、世界のいろいろな事柄の窓や鏡になっていると思います。美術だけを勉強していても、その作品の外に広がって世界や社会を理解していないと、その作品を見ることができません。作品を理解するためには、社会をもっと知ることが必要です。美術以外のいろいろな分野に興味を持つことが大事だと思います。今も、環境問題、政治や戦争など、世界中が厳しい状況にあり、社会が複雑になっています。そんな中で作られた作品について考えることや、クリエイション全般に対して敬意を持つことも感じてほしいですね。いろいろな見方のできる人や、芸術を学んでさまざまなカタチで社会にかかわる人が美術大学から出てくるといいなと思っています。



芸術学部 芸術学科 美術領域 現代アートコース

吉田 有里 (よしだ ゆり)

准教授

2005年 多摩美術大学芸術学部芸術学科 卒業  
2007年 多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程  
芸術学専攻 修了

2004年 BankART1929 スタッフ

2009年 あいちトリエンナーレ2010、2013  
アシスタントキュレーター

2015年～ Minatomachi Art Table, Nagoya[MAT, Nagoya]  
共同ディレクター  
アッセンブリッジ・ナゴヤ 共同ディレクター



“設計事務所をやるんだから建築科へ行け”  
と言われて



構造用合板をお客さんと一緒に磨いて作り上げたこども室



本と子どもが出会うための家具。実際に子どもに使用してもらうことでリアル体験をさせる



坂本和也氏と制作した作品「Wasser Gras Ofen Hütte」

## お客さんと一緒に作る家

—スペースデザインコースの卒業生ながら、アート系のことにもたくさんかかわっていますね

もともと油絵や彫刻をやりたくて、高校からずっと油絵をやっていたんです。大学へ進むとき、兄に彫刻がいいのか、油絵がいいのか相談しました。兄は武蔵野美術大学の造形学部建築学科へ行っているのですが、「どっちもダメ。俺と設計事務所をやるんだから建築科へ行け」と言うんです。そこでなぜか僕もそうなんだと納得して、そこで僕の人生は決まってしまった(笑)。でも、絵を描いていた高校生が、理系の力学計算もちゃんとやって、なおかつデッサンもやるというのはハードルが高い。名芸大ならスペースデザインコースがあるということで、ここならいろいろ試せるぞと思い入学しました。

3年生になったとき、建築系の学生はオープンデスクと言って、実際の設計事務所を体験するインターンがあるのですが、ここでまた兄にどんな事務所へ行けばいいか相談するんです。すると、「俺はRC(鉄筋コンクリート)に強いところへ行け、お前は木造に強いところへ行け」と。それで、また、そうか、そうかと(笑)。そこで先生に相談して、服部信康建築設計事務所という愛知県では結構有名な事務所へ行きました。3年生からずっと通う中、卒業制作を師匠が見に来てくれて、卒業制作展の終わった次の日に、明日から来るかと言われ就職となりました。僕は卒業制作展を機に就職先が決まりましたが、就

職氷河期の時代でみんな困っていましたね。

—それで無事に就職して働き始めたの？

兄と事務所を作るために、木造に強い事務所ということで、びったりのところに勤めることができました。でも、大学ではいろいろなことをやりますが、建築の現場のことをじつはあまり知らなくて、師匠からとりあえず朝に現場へ行っってこいと指令が出まして、大工さんが作るのを見ながら掃除をしていると言われました。現場へ行っって、こういうふうには壁ができていのかとか、こうなっているのかとか、そういうことを全部見て、夕方5時に現場が終わるので、それから事務所へ戻って図面を書いて、というような生活をしていました。朝8時に現場へ行っって、夕方5時に事務所、仕事が終わるのが大抵夜の2時頃、それで初任給は2万。睡眠を含めて自由な時間は6時間しかないので2万で過ごせちゃう(笑)。事務所に米だけはあって、これは自由に食べていいルールで、それで生きていけるんですよ。師匠は、「黒は磨けば光る。だから、うちはホワイト企業だ」と(笑)。今では考えられないことを言っていますが、師匠とは今でも良好な関係です。

—すごい経験ですね!

ここまでやらないとダメなんだと思い、すごくいい経験をさせてもらいました。師匠が描いたラフスケッチみたいなものから実際に建てていくのですが、お客さんの都合に合わせて、予算が足りないなら構造を変えて下地材そのまま磨いたり、お客さんと一緒に作り上げていくような、それがすごく楽しくて今につながっていま

す。そのうち師匠から現場を任せられるようになり、「もう西岡君に教えることないから独立しな」と言われて27歳で独立しました。

—はい!

それで、「独立しろって言われた」と兄に相談しました。すると、「いいね」と。「いや、兄貴免許取ってないじゃん」「いや、お前免許持ってるじゃん、お前が社長をやればいいじゃん」みたいなやりとりがあり、誘ってきたのは兄なのに、いつの間にか僕が社長になっていました!

## 現場のリアルを伝えること

—学生に伝えたいことは?

事務所を作ったことで多くのご縁があり、大学に呼ばれて工房を使っていろいろ作っているうちに、アーティストと一緒にコラボレーションして作業することが楽しくなって、建築と作品をコラボレーションしたり、展示を考えたり、大学同期の作家さんの家を作ったり、大学を卒業してからものづくりができる工房を作ったりと、どんどんやっていることが増えました。自分の仕事がリアルにあって、その現場を学生に伝えることが、自分に一番できることかなと思います。仕事でやっていることや、アーティストとコラボレーションする活動が全部つながっていくことが大事で、その現場を知ることで建物の構造を知り、社会の構造を知る。そうしたことを伝えることが、自分にとっては教えることなんだと考えています。

芸術学部 芸術学科 デザイン領域 スペースデザインコース

芸術学部 芸術学科 舞台芸術領域 共通科目等担当

西岡 毅 (にしおか つよし)

講師

2011年 名古屋芸術大学デザイン学部デザイン科 卒業  
服部信康建築設計事務所勤務

2016年 西岡計画工房 設立  
名古屋芸術大学デザイン学部 助手

2019年 名古屋芸術大学デザイン学部 非常勤講師

西岡計画工房



## 先端メディア表現コース

### 名古屋市科学館 「メディアデザインの力で “科学の魅力”を再発見！」で 作品展示

先端メディア表現コースは名古屋市科学館とコラボレーション、ナディアパークの協力で「メディアデザインの力で“科学の魅力”を再発見！」と題し、2023年9月30日(土)、10月1日(日)の2日間、学生が制作したメディアデザイン作品を名古屋市科学館 生命館地下2階 サイエンスホールにて展示、作品の一部が、2023年10月10日(火)～15日(日)まで、ナディアパーク2階 アトリウムでも展示されました。

このイベントは、作品を通して来場者に科学の魅力を再発見してもらおうというもの。PCを使ったプログラミングの作品、立体パズルやカードゲームなどの立体作品、音を使ったインタラクティブな作品、進化や科学の不思議を扱った映像作品など、さまざまな作品が展示され、来場者は実際に動かして遊ぶことができます。

名古屋市科学館からは、科学館にある展示品をメディアデザインの力でより興味を持ってもらえるように、子どもたちの興味を惹くようにしてもらいたい、というオーダーがあり、事前に学芸員の方に科学館の展示について講義していただきました。講義を参考に学生らも科学館を訪れ展示を確認して作品を構想、それぞれに興味のある展示のエッセンスを作品に落とし込みました。

名古屋市科学館での展示日は、工作・実験を通じて科学を学ぶ「青少年のための科学の祭典2023・名古屋大会」も開催され入館料が無料ということもあり、多くの子どもたちで賑わいました。来場者に作品を説明したり遊んでもらうなど実際にコミュニケーションすることも学生たちにとっては初めてのことで、笑顔で子どもたちに対応する学生の姿が印象的でした。



#### 海に生きた骨たち 3年 平松咲希さん



「正確には海生爬虫類とありますが、海の恐竜をテーマにしたパズルを組み立て、カメラで読み取るとその恐竜の説明が表示されるという作品です。どれくらいの大きさだったのかを比較できるアクリルスタンドも制作しました。科学館2階の化石展示が好きで、化石と恐竜の骨で作品を作りたいと真っ先に浮かびました。私の推しは、モササウルス。1番カッコイイと思います(笑)」



会場では、明かりの具合からか画像認識が上手くいかずひやっとする場面もありました。調整を繰り返して動作するようになってほっとした様子で、実際に展示することの難しさを感じました。

#### ペンデュラムアートを やってみよう

3年 木下朋香さん



「ペンデュラムアートという振り子を使った美術を体験してもらおうというワークショップです。実際にやってみて、できた作品を家に持ち帰ることができたら楽しいなと考えました。普通の絵の具だと乾きが遅いので、早く乾いて持ち帰ることができるようにインクに揮発性の高いアルコールを混ぜて工夫しました。キャンバスも素材をいろいろと試行錯誤して選びました」



好きな色が作れるよう複数のインクを用意したり、汚さないように養生するなど、大掛かりなものとなりました。家で同じように再現できるマニュアルを制作するなど細やかな配慮もあり、楽しい作品となりました。

## 「メディアデザインの中で “科学の魅力”を再発見！」 開催にあたって

このような機会をいただいて感謝しています。先端メディア表現コースの学生にとってこうした場での展示は初めてのことで、とても良い経験となりました。理系の学生もけっこういますので、テーマに興味を持って取り組めたと思います。多種多様な作品になっていて、とても面白い展示になっ

たのではないのでしょうか。映像が得意な学生、アニメーション、化石……。それぞれに自分の好きなテーマと自分の表現、伝えたい科学をミックスして作品を作っています。事前の講義や科学館をリサーチした上で作っているの、より深められたのではと思います。



芸術学部 芸術学科  
デザイン領域 先端メディア表現コース  
**加藤良将** 講師

2006年 中京大学大学院情報科学研究科  
メディア科学専攻修士課程修了  
2014年 中京大学人工知能高等研究所 所員  
2019年 名古屋芸術大学芸術学部芸術学科  
デザイン領域 講師



様々な電子機器、プログラミングを用いて表現するメディアアートを制作。近年では、インタラクティブ性のある作品を学生が自ら考え、創意工夫しながら制作できるように学習過程の見直しや教材の開発を続けている。

## 名古屋芸大生夢サポート募金 活動状況

本学は、「学生のため」の視点を重要視し、2013年4月「名古屋芸大生 夢サポート募金」を開始いたしました。10年目となる2022年度において募金のご支援を依頼しましたところ、次のご支援をいただきましたので、その状況をお知らせします。

本募金は、学生一人ひとりが持つ夢とその可能性を引き出し、多様な社会環境の中で自信と誇りを持って、志高く社会で活躍できることを願い、8項目の中から用途を指定して寄附をすることができる募金制度です。

また、2023年からは新たに「名古屋芸大サポーターズクラブ募金」としてリニューアルいたしました。

今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**1** 募集期間：2022年（令和4年）4月1日～  
2023年（令和5年）3月31日

**2** 期間合計寄附金額：11,074,097円

**3** 募金の使途別状況[2023年（令和5年）3月31日現在]

(単位：円)

寄附金の使途	2022年度 寄附金額	2022年度 使用金額	活用状況
1 学生に対する奨学金	64,000	0	ローター アクトクラブ 大会参加
2 音楽活動支援事業	10,004,000	0	
3 制作活動支援事業	54,000	0	
4 芸術的素養習熟 支援事業	4,000	0	
5 子ども教育活動 支援事業	4,000	0	
6 キャリア支援事業	4,000	0	
7 グローバルな学生を 育成するための 学生企画の支援	4,000	0	
8 その他、学生支援の 充実を図る事業	936,097	298,907	

**4** 募金対象別状況

[2023年（令和5年）3月31日現在]

(単位：円)

	募金対象	寄附金額
1	卒業生	80,000
2	教職員・役職（退職者含む）	10,513,000
3	その他賛同する個人・法人・団体	481,097

**5** 寄附者について

2022年度にご寄附いただいた方々は、8名、8法人です。

○ご芳名（敬称略）

〈個人〉竹本義明、藤原史江、高橋哲司  
〈法人〉株式会社亀山デザイン、株式会社ワット、東朋テクノロジー株式会社、内外物産株式会社、富士工管株式会社

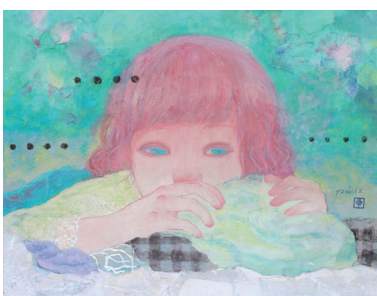
○ご芳名公表辞退

〈個人〉5名 〈法人〉3団体  
ご寄附いただいた方のうち、個人の方から音楽活動支援事業に10,000,000円のご寄附をいただきました。

誠にありがとうございます。



名古屋芸大サポーターズクラブの詳細はこちらをご覧ください >>> <https://nua-supportersclub.com/>



表紙の作品

「夜のむこうに」2021

芸術学部 芸術学科 美術領域  
日本画コース講師  
山守 良佳

「名古屋芸大  
グループ通信」  
ウェブサイトを  
ウエブサイト



発行：名古屋芸術大学  
企画・編集：広報部  
デザイン・協力：くまな工房一社  
印刷：株式会社クイックス  
発行：2023年12月

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 広報部  
〒481-8503  
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地  
電話 0568-24-0318  
FAX 0568-24-0369

